

短説

粗忽の使者

森田カオル

俺も暇じゃあねえんだけどよ、ユリちゃんが連れてきたお客さんだからよ、何でも聞いてくれよ。……今あんたをここに案内してきた事務の女の子だよ、ユリちゃんって。

何？ マツオカ……ああ、マツちゃんか。

アイツねアイツ。それがさ、聞いてくれよ。

アイツ、この間よ、ハツハツハ……。いや悪い悪い。それがさ、間抜けな奴でよ、配車係に「練馬の大泉町」へ集荷に行けって言われてさ。そう、関越インターのある。で、アイツどこへ行ったと思う？ 「群馬の大泉町」へ行っちゃまったんだよ。電話かかってきてさ

あ「関越道の東松山インターで降りて利根川越えて、地図見たんだけど、『大泉町一丁目』って載ってないんです。インターチェンジのそばって言われたんですけど、見当らないん

です」だと。高速乗るときに気がつけて。通過してるってえの。

それだけじゃねえんだ。杉並に「堀ノ内」って所があるんだけど、あんた知ってる？ で、あんたももう察しが付いてると思うけど、アイツあ川崎の「堀之内町」に行っちゃまったのさ。杉並に競馬場はねえってえの。

目黒の「三田」と慶応大のある「三田」を取り違えたってえんならまだわかるけどさあ、あれじゃああんまりだ。あの調子じゃあ、そのうち「向島へ行け」って言われて、小笠原の「聳島」にでも行きかねえぞ。もつとも漁船でもチャーターしなけりゃ行けやしねえけどよ。

そう言やあ、アイツ、暫く見てねえな。

えっ、あんた刑事さんだったの？ で、用件は？ ……「済んだ」って。何で？ マツちゃんの事だろ。知ってる事あ話すよ。……「理由がわかった」って？ 俺あまだ何も話してねえぞ。なあ、刑事さんよオ……。